

私のライフワーク『点字翻訳で視覚障害者へのあかりを』

2016.9.30

レポーター：迫田地区委員



愛知県あま市にお住まいの岡田さんは

今年90歳を迎えられました。

松下電器を定年退職されてから

点字翻訳のボランティア活動を30年に亘り、
取り組んで来られました。

ボランティア活動は他人への活動だけでなく
自分自身に帰ってくるものだと気づかれ、今後も
無理をせず

「汗出せ・声出せ・顔出せ」

をモットーにボランティア活動に取り組んで
おられます。

愛知県あま市にお住まいの岡田さんは今年90歳を迎えられました。
松下電器を定年退職されてから点字翻訳のボランティア活動を30年に亘り、
取り組んで来られました。
点字とは6つの点の組合せで文字・数式・記号・楽譜など表現し、視覚障害者自身が
文字を読める光であり、文化だそうです。
点字翻訳を始められたきっかけは、ご本人が急性白内障になり、手術後目の見
える事のすばらしさに感動と感謝を覚え、少しでも視覚障害者のお役に立てばと
の思いでした。
しかし現実には厳しく、当時は千枚通しのようなもので一文字一文字ゲージを使い
手で行う作業。目の具合は悪くなり、肩もパンパンになり、ついには腱鞘炎になり、
やめようかと思った事も度々あったそうです。でも奥様をはじめご家族の励ましが
あり、続けて来られました。
手作業からタイプライターを導入。これはご家族のプレゼントだそうです。日本語
文字は人名や地名の呼び方が複雑で、点字翻訳は困難の連続、最後の一文字
が間違いで、すべてがダメになったこともあるそうで、ミスでは済まされない作業
でした。奥様もPCや辞書を駆使し、様々な課題を調べてサポートされたとの事。
現在は1日3時間程PCに向かい作業され、月二回は名古屋市内の社会福祉
協議会ひまわりグループというサークルで多くの若い女性に囲まれて楽しく作業
されています。
ボランティア活動は他人への活動だけでなく自分自身に帰ってくるものだと気
づかれ、今後も無理をせず「汗出せ・声出せ・顔出せ」をモットーにボランティア活
動に取り組んで行かれるそうです。